

平成21年 9月

西田直史 学位論文審査要旨

主 査 井 藤 久 雄
副主査 村 脇 義 和
同 松 浦 達 也

主論文

Zinc supplementation with polaprezinc protects mouse hepatocytes against acetaminophen-induced toxicity via induction of heat shock protein 70

(ポラプレジンクによるマウス肝細胞への亜鉛供給は熱ショック蛋白70誘導を介してアセトアミノフェン肝細胞障害を抑制する)

(著者：西田直史、大畑修三、楠本智章、持田晋輔、仲田純也、稲垣喜三、太田好次、松浦達也)

平成21年 Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、マウス初代培養肝細胞を用いて、抗胃潰瘍薬であるポラプレジンク (PZ) 処理による肝細胞への熱ショック蛋白 (HSP) 70 発現誘導とアセトアミノフェン (APAP) 肝細胞障害抑制効果を検討したものである。その結果、PZ およびその構成成分である亜鉛処理は肝細胞に HSP70 発現を誘導することにより、APAP 処理による脂質過酸化および細胞死を抑制することが示唆された。本論文の内容は、肝臓病学の分野で、PZ および亜鉛などの HSP 誘導剤がアセトアミノフェン肝障害抑制に有用であることを示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。